

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第7号と第8号については最新の台風予報を参照。
- 27日は、低気圧が千島近海から千島の東へ進み、前線が日本の東から本州南岸付近にのびる。
- 28日から7月1日は、高気圧が沿海州付近から日本の東へ移動する。前線が東シナ海から日本の南にのびる。太平洋高気圧が日本の南に張り出す。

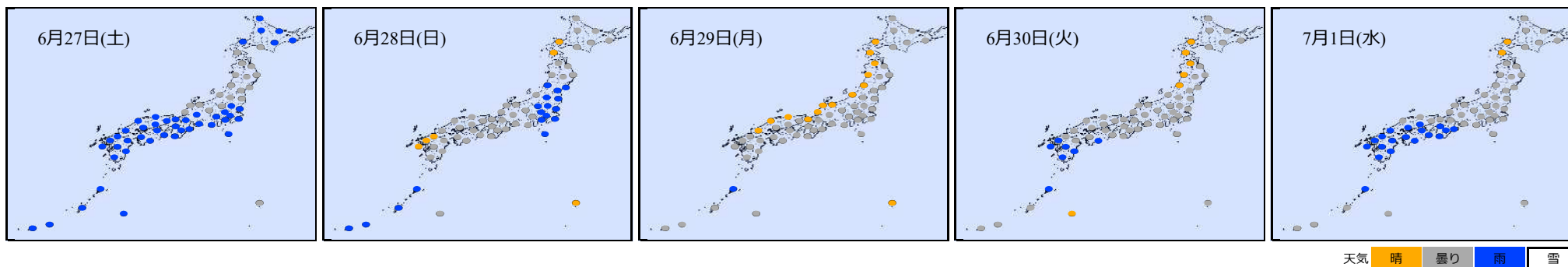
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 東日本では、27日から28日にかけては台風第7号の影響で大荒れや大しけとなる所があり、台風の進路等によっては、警報級の大雨となるおそれがある。
- 西日本、沖縄・奄美では、27日にかけては台風第7号の進路等によっては、大荒れや大しけ、警報級の大雨、高潮となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

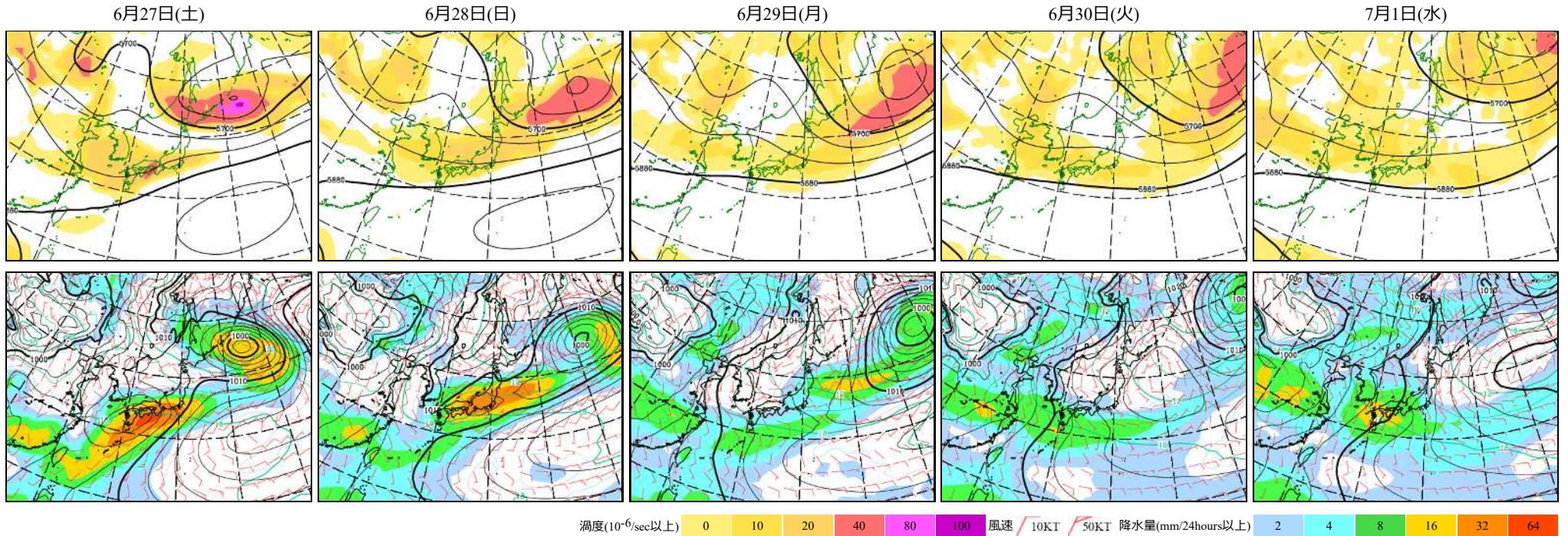
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

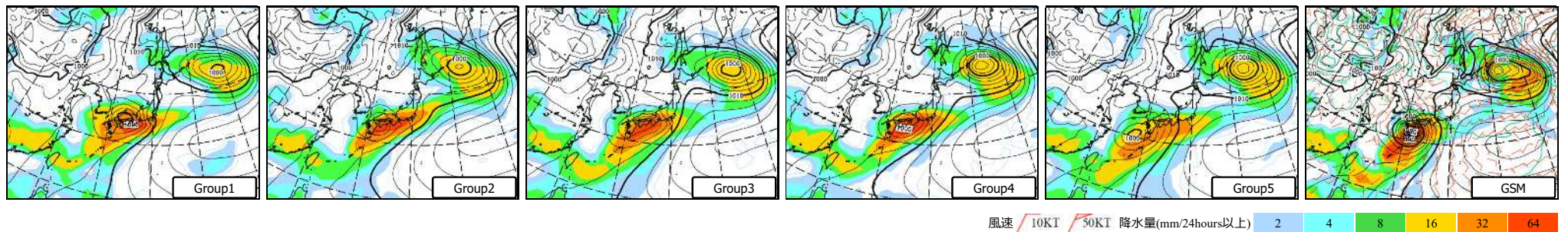


- 北日本は、雲が広がりやすく、27日と28日は雨の降る所がある。29日から7月1日にかけては晴れる所もある。
- 東日本と西日本は、曇りや雨の降る日が多いが、28日と29日は晴れる所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月27日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、27日から29日にかけて日本海から日本の東に進むトラフとその後面のリッジが明瞭化し、遅くなる。28日から29日にかけて日本付近に進む5820mのトラフが浅くなる。サブハイの日本の南への張り出しは29日にかけては弱まる傾向がある。地上は、27日に日本の東へ進む低気圧が弱まる。29日にかけて太平洋高気圧の日本の南への張り出しは弱まるが、その後は東から次第に強まる。
- GSMは、ENSと同じような変化傾向がある。地上は29日以降に北日本から東日本付近に移動する高気圧が明瞭になった。
- モデル間の差は、北系のトラフ、リッジについては次第に揃ってきたが、台風の予想は27日から違いが見られる。
- スプレッドは期間の終わりで大きく、29日以降は特定高度線のばらつきも大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、台風進路予報や最新のENSを基に考えるが、海外モデルも参考にする。